

早

期の算数教育で親が果たす役割は非常に大きい。学習の役に立つおもちゃやゲームを与えることにとどまらず、日々の生活の中で算数を活用し、子供にお手本を示すことも重要だ。

親が算数を活用しているのを見て育った子供は、自らもよく算数を用いる。そうした活動が早い段階で算数のスキルを育み、それが将来の発展的な学習の土台になる。

子供が4歳くらいまでに身に付けさせたい算数のスキルが5つある。これらのスキルを学ぶ機会は、日常生活の中の至る所に転がっている。シンプルで楽しい活動を通じて、子供が算数のスキルを学ぶよう促そう。

1 数を数える
4歳くらいまでにこのスキルを学びたい。具体的には、20までの数を数えられる、数字が記されたカードを数の順に並べら



Five Math Skills for Kindergarten 理数系の能力を伸ばす 日常生活の工夫は

算数 将来の学習に向けてしっかりした土台を築くために
早い段階で子供に身に付けさせたい5つのスキルとは

数字も図形も
遊びやお手伝い、散歩や買い物など日々の生活を通じて親は学びの機会をたくさん提供できる

れる、数え上げなくても物の個数を言える、物の並べ方が変わっても個数が変わるわけではなく理解できる、個数を数え上げたときは最後に言った数字が全体の個数を示していることを理解できる、といったことが目標になる。

このスキルは、日々の生活の中で学習しやすい。おもちゃを片付けるときに数を数えたり、キッチンから子供部屋までの歩数を数えたりしてもいい。時計やスマートフォンに表示されている数字を親が読み上げるのも有効な方法だ。

スーパーマーケットで目に入った数字を言わせたり、ドライブ中にほかの車のナンバープレートの数字を読ませたり、対向

車線を走る車の台数を数えさせたりしてもいいだろう。子供が数え終わったら、「いくつだった?」と尋ねよう。

2 足し算と引き算
形のある物を使って初歩的な足し算と引き算ができるようにしたい。このスキルも生活の中で学べる。例えば、夕食の準備をする手伝いをさせて、指示したとおりの数のお皿やスプーンを持ってこさせてもいいだろう。そのとき、算数の用語を使って子供と話すことが重要だ。「あといくつのお皿が必要だと思っ

車は全部で何台になったの?」と尋ねればよい。数字を数える歌やリズム遊びも効果的だ。

3 10進法
「10」が10個の「1」で構成されることを学びたい。1〜10の数字を理解するためには、手や足の指を活用するといいい。

子供に10進法を学ばせるには、コインも役に立つ。小銭を用意してお店屋さんごっこをし、いろいろな金額のおもちゃを「購入」させよう。いくらのお金でいくつのおもちゃが買えるのかを話し合うのもいい。

4 計測とデータ処理
さまざまな物を形や色や大きさに基づいて分類したり、同じカテゴリに分類されている物に共通する特徴を言い当てたりできるようにしたい。大きい物から小さい物へ順番に並べるなど、特定の計測基準に基づいて物に順序づけができるスキルも身に付けたい。

キッチンで計量カップやスプーンを使って実際に計測するのもいい経験になる。食器や洗濯物やおもちゃを片付ける活動を通じて、物の分類の仕方を学ぶこともできる。

数や長さや重さなどを比較するスキルも学びたい。親が比較の言葉を会話で用いれば、子供の理解を促せる。手伝いをさせているときに「大きいほうのボールを取ってちょうだい」「小さいほうのフォークをテーブルに並べて」などと言えたい。

5 図形
円や正方形や三角形などの2次元の図形を識別できるようにしたい。3次元の図形は、「箱」や「ボール」といった日常語で理解できれば十分だ。

こうしたスキルを身に付けさせるために、身の回りにあるさまざまな図形に注意を向けさせよう。散歩しているときに、車輪が円形であることを指摘し、ほかにも円形の物があるか探させてもいい。パズルや積み木も子供に図形への理解を深めさせる有効な手段になる。

以上のような活動を通じて、あなたの子供が楽しみながら算数学習の土台を築く手助けをしてみてほしい。

スーザン・ソネンシャイン(メリーランド大学ホルティモア校応用発達心理学教授)
レベッカ・タウリング(同大学博士課程)
シャリニ・メツツガ(フランスジョーヌ・ド・ロムニエ・カレッジ研究アナリスト)